

平成27年度  
関東地方ダム等管理フォローアップ委員会  
**武蔵水路改築事業モニタリング委員会の設置について**



平成27年12月18日

独立行政法人 水資源機構  
利根導水総合事業所 武蔵水路改築建設所

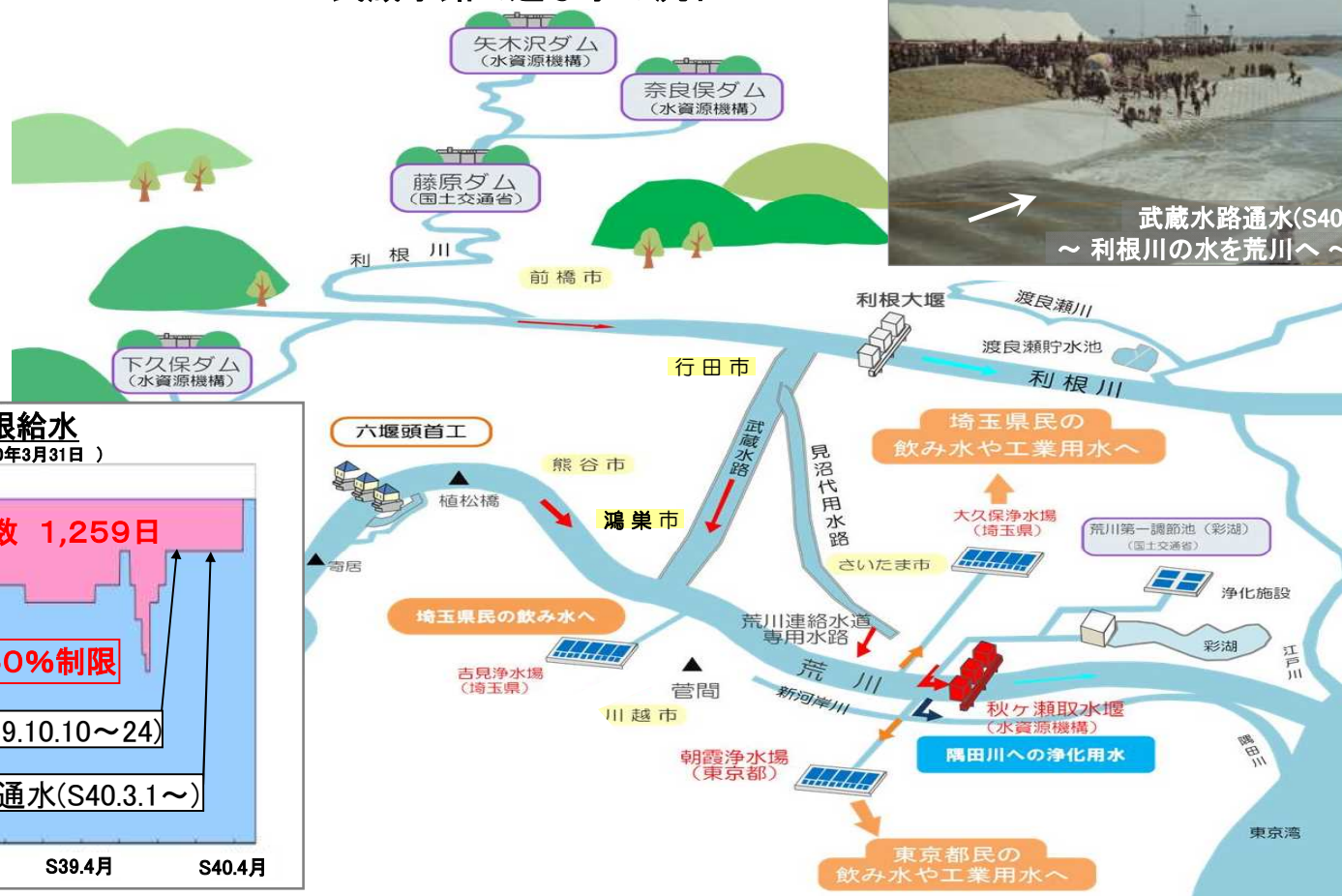
# 武蔵水路建設の経緯 ~首都圏の生活を支える「水」~

- ◇ S30年代の水需要増大と東京オリンピック直前の大渇水により、深刻な水不足「東京砂漠」
- ◇ 豊かな利根川の水を荒川へ導水する利根導水路事業の一環として武蔵水路を建設
- ◇ 武蔵水路はS39年に工事着手、S40年に暫定通水、S42年に完成
- ◇ 約1,300万人の飲み水を休むことなく送り続け、首都圏の生活を支える重要な施設

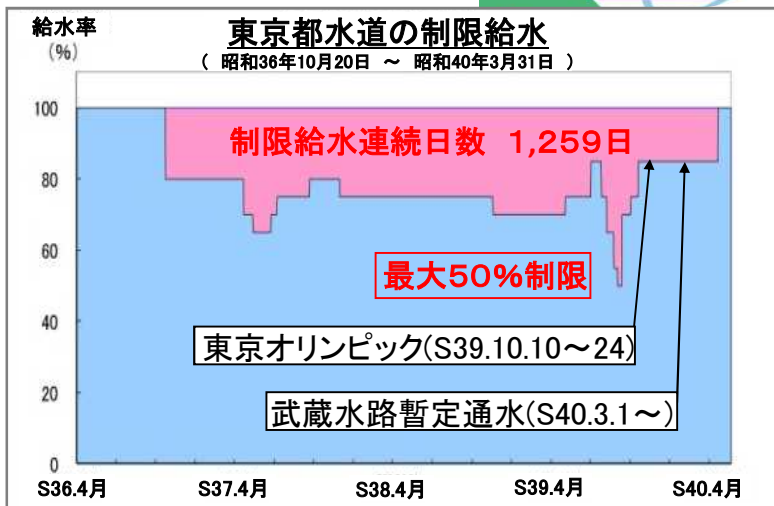


給水車から飲み水をもらう人々  
~ S30年代の深刻な水不足 ~

## 武蔵水路で運ぶ水の流れ



武蔵水路通水(S40)  
~ 利根川の水を荒川へ ~



# 武蔵水路改築事業の目的

- ◇建設から約50年が経過し、①地盤沈下や老朽化により低下した通水機能の回復、②大規模地震を想定した耐震化、③都市化の進展等による排水能力の強化が必要
- ◇この課題解決のため、3つの事業目的をもって武蔵水路を**全面リニューアル（改築）**
- ◇H21年に事業実施計画認可、H22年に工事着手、H27年末に工事完成予定

## ■ 3つの事業目的

### 1 安定通水機能の回復

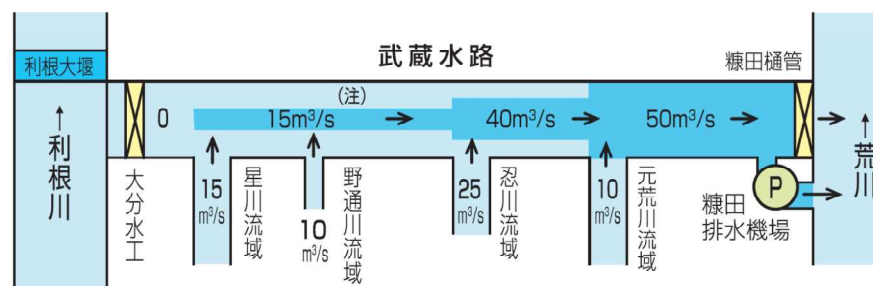
- ◇老朽化等により低下した施設**機能の回復**を図る。また、地震発生時の被害を最小限に防止するため、**耐震性の確保**を図る。

○都市用水 最大約35m<sup>3</sup>/sを荒川へ導水

### 2 治水機能の確保・強化

- ◇水路周辺における浸水被害の軽減のため、**内水排除機能の確保・強化**を図る。

- 内水排除 星川、野通川、忍川及び元荒川等の洪水を荒川に排水
  - ・星川水門、放流口2箇所の新設
  - ・排水機場ポンプ能力の増強
- 一元管理 水資源機構が全ての施設を管理
  - ・各施設を遠隔操作



(注)星川流域と野通川流域ではそれぞれのピーク流量に到達する時間があるため、この区間の水路を流れる流量は最大15m<sup>3</sup>/sになります。

### 3 荒川水系の水質改善

- ◇荒川水系の水質改善に資するため、利根川から**浄化水の導水**を行う。

○浄化用水 最大約8m<sup>3</sup>/sを荒川へ導水

# 武蔵水路モニタリング委員会の設置について

武蔵水路は都市用水の導水等を目的に昭和42年から運用しています。その後、周辺地域の内水氾濫被害軽減のため、埼玉県との協定に基づき、内水排除施設としても運用されてきました。

現在行っている武蔵水路改築事業により、埼玉県が行ってきた内水排除を水資源機構が行うこととなり、武蔵水路が特定施設（河川管理施設）として位置づけられるため、「ダム等の管理に係るフォローアップ制度」の対象施設となります。

このため、武蔵水路では、武蔵水路改築事業の完了に先立ち、「ダム等の管理に係るフォローアップ制度」に基づき、モニタリング調査の実施、調査結果、事業による効果の分析を検討する「モニタリング委員会」を設置します。

## ◆武蔵水路建設事業、改築事業の経緯

### 【武蔵水路建設事業】

昭和37年8月 「利根川水系における水資源開発基本計画」 閣議決定  
 （利根導水路建設事業は昭和38年3月掲上）

昭和39年1月 武蔵水路工事着手  
 昭和40年3月 武蔵水路緊急通水開始  
 10月 利根大堰建設工事着工

昭和42年3月 武蔵水路工事完了

### 【武蔵水路改築事業】

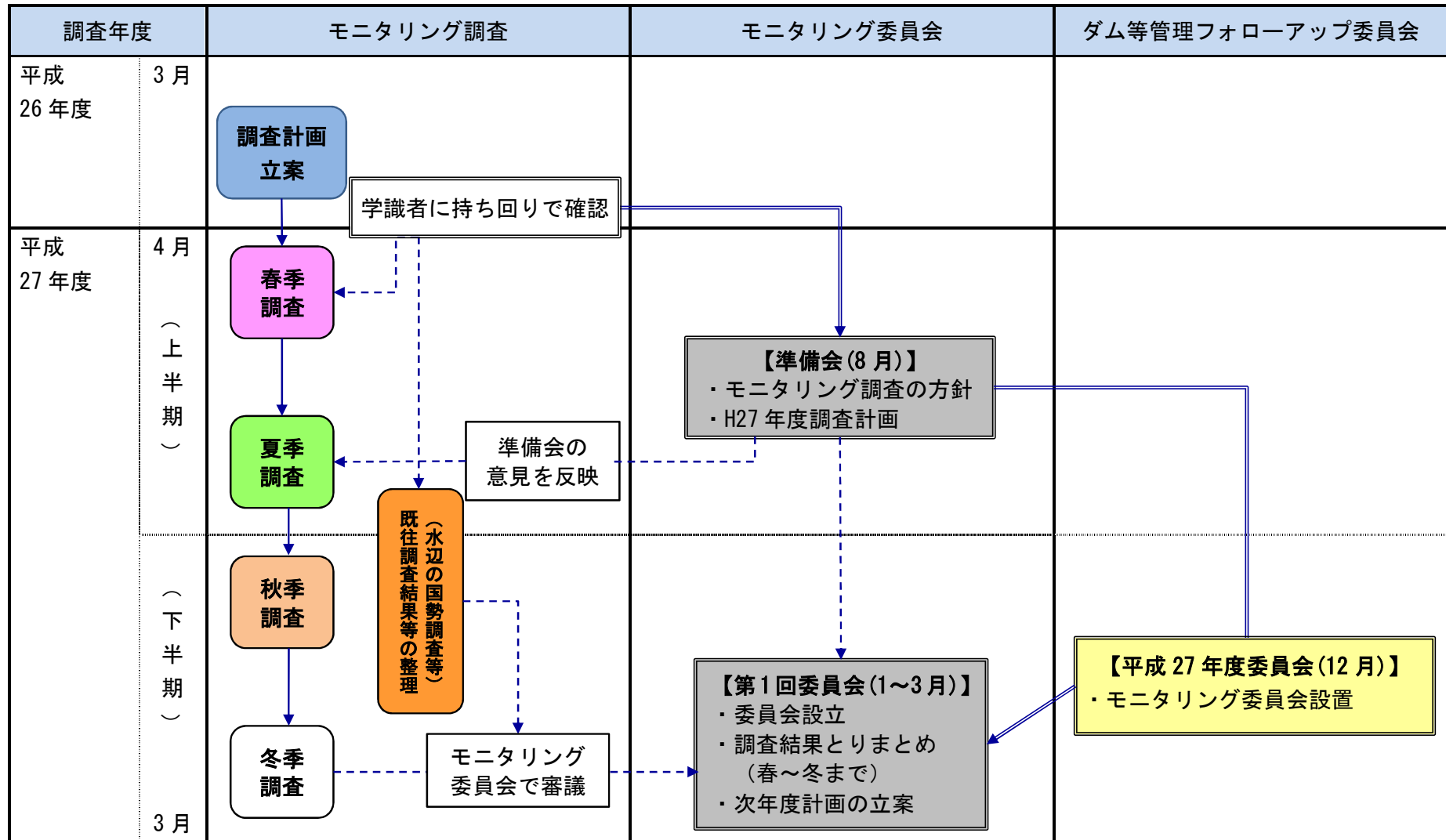
平成21年8月 武蔵水路改築事業計画認可  
 平成22年8月 武蔵水路改築事業工事着手  
 平成27年度末 事業完了予定

## ◆ダム等管理フォローアップ制度 【事後評価・定期報告・モニタリングの実施年度】

管理 年次	年度	武蔵水路 改築事業	管理	フォローアップ制度			
				モニタリング	年次報告	定期報告	事後評価
		↑					
	H27	↓		●			
1	H28		↑	●	○		
2	H29				○		
3	H30				○		
4	H31				○		
5	H32				○	○	○
・							
・							
・							

（年数については、モニタリング委員会の判断）

# 武蔵水路モニタリング委員会の進め方



# 武蔵水路モニタリング委員会

## 武蔵水路モニタリング委員会 委員名簿

氏名	所属	備考
清水 義彦	群馬大学大学院理工学府教授	
鈴木 邦雄	埼玉県農林部水産研究所所長	
堂本 泰章	埼玉県生態系保護協会事務局長	
古里 栄一	埼玉大学大学院理工学研究科助教	